

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	古賀 貴子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素の生体内での生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関係、調理に伴う栄養素の物理化学的变化などについて、未だ不明の点も少なくない。本演習ではこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法などに関連するテーマについて文献を精読し、その内容に関する議論を行って文献に対する批判・検討能力を身につける。さらに統計学的手法や解析手法を自ら修得する。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	栄養科学領域の研究に関心を持ち、その発展に貢献する意欲・態度を身につけている。			授業態度・授業への参加	10%		
思考・判断	栄養科学領域の研究論文及びその他の情報などを科学的に分析し、その要点や問題点を指摘できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
技能・表現	栄養科学領域の情報・資料などを分析・理解するための統計学的手法や解析手法を使用できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
知識・理解	栄養科学の基本概念とそれに基づく栄養素と調理および食生活を理解し、説明できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内レポート（課題レポート）、受講者の発表・討論、授業態度・授業への参加について総合的に評価する。提出したレポートにはコメント等を記入し返却しフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>関連領域の文献を精読し、その内容を発表する。質疑応答、討論を通じて理解を深める。 情報収集の方法や実験方法、実験結果のまとめ方等についても演習する。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：必要に応じて、資料を配布する。 参考書：適宜紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、「特別研究」の質を向上させるために行うものであり、受講者の自主性および積極性が求められる。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	松尾 嘉代子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素が生体内で果たす生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関わり、調理に伴う栄養素の物理化学的変化などについて多くの論文が発表されているが、未解明の点も多く今後の課題となっている。そこでこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法など、関連するテーマの中から1つを選び、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計的手法や解析手法を自ら修得しながら、「修士論文」の質を向上させるように指導を行う。</p> <p>なお、本演習ではライフステージに応じた栄養素の特徴に関する情報整理、栄養管理に必要な能力の養成などを目指す。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲・態度	これまでに学修した知識や技術を応用し、設定テーマについてしっかりと知識を蓄積し、論理的に意欲的に展開することができる。			授業態度・授業への参加度	10%		
思考・判断	設定したテーマについて調べ、研究をさらに発展させるべき分野を見極めたり、これまで十分に研究されていない新たな知見を得たり、課題を発見したりすることができる。			授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表(プレゼン)	5% 10% 10%		
技能・表現	研究の仮説、方法など、研究の枠組みを検討し、具体的にテーマの掘り下げやテーマに適した研究方法の検討、さらに調査・実験の計画を立案することができる。			授業外レポート 受講者の発表(プレゼン)	10% 10%		
知識・理解	設定テーマの実験・調査等を通して修得した科目内容を理解すると共に、研究の意義、手法、解析方法等の専門的知識を身につける。			授業内レポート 授業外レポート 受講者の発表(プレゼン) 演習	5% 10% 10% 5%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度・参加度 (10%)、プレゼン (40%)、授業内レポート (10%)、授業外レポート (30%)、演習 (10%) の割合で評価する。なお、提出されたレポートは授業、ポートフォリオ等でフィードバックを行うので確認すること。 ・プレゼンテーションは、レポートの概要をまとめテーマに合った内容であったかを評価する。 ・授業内・外のレポートは、内容について事前に検討を行いその結果をまとめたもので評価する。 ・演習は、応用栄養学に関する実務的な内容を評価分析する等の処理能力で評価する。 ・提出されたレポート、研究への取り組み態度、プレゼンテーション内容など、その完成度を総合的に評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養学や栄養教育に関する文献を講読しながら演習する。 ・研究に関わる成果のまとめ(レポート作成)、プレゼンテーションなど実践的な演習を行う。 ・展開は2年間にわたって行うが、受講生の研究内容や研究の進捗状況に合わせて適宜演習を進める。また、主体的に実施されることから、研究の進捗状況によっては夏季・冬季・春季休暇期間中も実施する場合がある。 							
教科書・参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・特に定めるものはないが、必要に応じ指示・紹介する。 							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習の中で得られるデータの集計や解析、レポート作成などを通じ洞察能力などを修得するとともに、プレゼンテーションの方法も含めいろいろな表現能力も併せて修得してもらいたい。 ・教員の指導のもと、自分の力で進めてもらいたい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく。
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる。
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく。
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する。
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	岡本 美紀		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素が生体内で果たす生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関わり、調理に伴う栄養素の物理化学的変化などについて多くの論文が発表されているが、未解明の点も多く今後の課題となっている。そこでこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報の管理や普及・啓蒙法など、関連するテーマの中から 1 つを選び、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計的手法や解析手法を自ら修得させながら、「特別研究」の質を向上させる。</p> <p>本演習では栄養情報の管理や普及・啓蒙法などに対する検討を行うことを通して、特に集団を対象とした栄養改善活動に必要な能力の養成を目指す。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	栄養情報の管理や普及・啓蒙法など、社会で行われている施策などについての情報収集を行うようになる。			課題レポート 授業態度・授業への参加		5% 15%	
思考・判断	既存の公衆栄養プログラムを基にして、そのプログラムがどのような健康・栄養問題の課題に対する取組であるか考えることができるようになる。			課題への取組 受講者の発表（プレゼン）		10% 15%	
技能・表現	既存の健康・栄養調査結果等の情報を基に対象集団の現状の把握や課題の抽出を行うことができる。 栄養改善活動について、対象者への活動の必要性の認識および円滑な実施法を考えられるようになる。			課題レポート 課題への取組 受講者の発表（プレゼン）		10% 5% 15%	
知識・理解	調査等を通して、対象者についての現状認識と、その要因について理解する。 対象者に合わせた活動を行うことの必要性などを理解できる。			課題レポート 授業内レポート 受講者の発表（プレゼン）		10% 5% 10%	
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
テーマに対する理解度とまとめ方、課題への取組や実践的活動等を基に総合的に評価する。							
授業の概要							
栄養疫学・公衆栄養マネジメントに関して文献を検索し、その内容や方法などについて討論や調査をして自分なりの情報を収集しまとめることで個々に設定したテーマに対する理解を深める。							
教科書・参考書							
教科書： 参考書：							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は「特別研究」の質を向上させるために行うものである。したがって受講者の受講姿勢によって充実度が全く異なる。自主的かつ積極的に取り組むことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく	
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。	
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案	
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。	
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告		
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告		
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告		
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告		
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正	
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。	
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導		
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導		
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導		
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導		
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる	
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく	
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する	
35・36	修士論文作成準備	草稿報告		
37・38	修士論文作成準備	草稿報告		
39・40	修士論文作成準備	草稿報告		
41・42	修士論文作成準備	草稿報告		
43・44	修士論文作成準備	草稿報告		
45・46	修士論文作成準備	草稿報告		
47・48	修士論文作成準備	草稿報告		
49・50	修士論文作成準備	形式確認	修士論文の発表準備	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正		返却修士論文の修正
53・54	修士論文発表準備	発表準備		
55・56	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答		
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ	

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	水江 文香		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	1～2年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素が生体内で果たす生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関わり、調理に伴う栄養素の物理化学的变化などについて多くの論文が発表されているが、未解明の点も多く今後の課題となっている。そこでこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法など、関連するテーマの中から1つを選び、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計学的手法や解析手法を自ら修得しながら、「修士論文」の質を向上させるように指導を行う。</p> <p>なお、本演習では食物の評価の仕方、主要食品の調理性、研究方法などについて演習するが、特に給食経営管理に関する内容を重点的に指導する。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	これまでに学修した知識や技術を酷使し、設定テーマについてしっかりと知識を蓄積し、論理的に意欲的に展開することができる。			授業態度・授業への参加度	10%		
				受講者の発表(プレゼン)	10%		
思考・判断	設定した領域のテーマについて調べ、研究をさらに発展させるべき分野を見極めたり、これまで十分に研究されていない新たな知見を得たり、課題を発見したりすることができる。			授業内レポート	5%		
				授業外レポート	10%		
				受講者の発表(プレゼン)	10%		
				演習	5%		
技能・表現	研究の仮説、方法など、研究の枠組みを検討し、具体的にテーマの掘り下げやテーマに適した研究方法の検討、さらに調査・実験の計画を立案することができる。			授業外レポート	10%		
				受講者の発表(プレゼン)	10%		
知識・理解	設定テーマの実験・調査等を通して修得した科目内容を理解すると共に、研究の意義、手法、解析方法等の専門的知識を身につける。			授業内レポート	5%		
				授業外レポート	10%		
				受講者の発表(プレゼン)	10%		
				演習	5%		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度・参加度(10%)、プレゼン(40%)、授業内レポート(10%)、授業外レポート(30%)、演習(10%)の割合で評価する。なお、提出されたレポートは授業、ポートフォリオ等でフィードバックを行うので確認すること。 ・プレゼンテーションは、レポートの概要をまとめテーマに合った内容であったかを評価する。 ・授業内・外のレポートは、内容について事前に検討を行いその結果をまとめたもので評価する。 ・演習は、給食経営管理に関する実務的な内容をPC処理し分析する等の処理能力で評価する。 ・提出されたレポート、研究への取り組み態度、プレゼンテーション内容など、その完成度を総合的に評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・調理に関する文献を講読しながら演習する。 ・研究に関わる成果のまとめ(レポート作成)、プレゼンテーションなど実践的な演習を行う。 ・展開は2年間にわたって行うが、受講生の研究内容や研究の進捗状況に合わせて適宜演習を進める。また、主体的に実施されることから、研究の進捗状況によっては夏季・冬季・春季休暇期間中も実施する場合がある。 							
教科書・参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・特に定めるものはないが、必要に応じ指示・紹介する。 							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習の中で得られるデータの集計や解析、レポート作成などを通じ洞察能力などを修得するとともに、プレゼンテーションの方法も含めいろいろな表現能力も併せて修得してもらいたい。 ・教員の指導のもと、自分の力で進めてもらいたい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく。
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる。
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく。
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する。
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	栄養科学演習 Seminar of Nutritional Science			担当教員	林 俊介		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>栄養科学領域では、栄養素の生体内での生理的役割、栄養素が関与する生活習慣病の発症機構、遺伝的・環境的要因と栄養素との関係、調理に伴う栄養素の物理化学的变化などについて、未だ不明の点も少なくない。本演習ではこれらの点を踏まえて、疾病時の栄養療法や健康時の栄養管理、栄養素の体内代謝、栄養素と調理、食生活と衛生管理、さらには栄養情報管理や普及・啓蒙法などに関連するテーマについて文献を精読し、その内容に関する議論を行って文献に対する批判・検討能力を身につける。さらに統計学的手法や解析手法を自ら修得する。</p> <p>本演習では、臨床栄養分野における病態栄養や栄養管理、栄養教育に関する内容について、実臨床の立場から必要な知識、技能の習得を目指す。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲 ・態度	栄養科学領域の研究に関心を持ち、その発展に貢献する意欲・態度を身につけている。			授業態度・授業への参加	10%		
思考・判断	栄養科学領域の研究論文及びその他の情報などを科学的に分析し、その要点や問題点を指摘できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
技能・表現	栄養科学領域の情報・資料などを分析・理解するための統計学的手法や解析手法を使用できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
知識・理解	栄養科学の基本概念とそれに基づく栄養素と調理および食生活を理解し、説明できる。			受講者の発表 課題レポート	30%		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
授業内レポート（課題レポート）、受講者の発表・討論、授業態度・授業への参加について総合的に評価する。提出したレポートにはコメント等を記入し返却しフィードバックする。							
授業の概要							
関連領域の文献を精読し、その内容を発表する。質疑応答、討論を通じて理解を深める。情報収集の方法や実験方法、実験結果のまとめ方等についても演習する。							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、「特別研究」の質を向上させるために行うものであり、受講者の自主性および積極性が求められる。実社会で起こっている様々な出来事を医療・保健・栄養の分野の立場から興味を持って接して欲しい。その様な積み重ねが臨床能力を高めることにつながります。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	
49・50	修士論文作成準備	形式確認	返却修士論文の修正
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ